

## <シンポジウム>

### 現場から求められている医療・福祉系大学の課題

新潟医療福祉大学臨床技術学科教授  
長濱 大輔  
新潟医療福祉大学理学療法学科長  
大西 秀明

追手 巍大会長が掲げた本学会・学術集会の基本テーマである「現場から求められている医療・福祉系大学の課題」が、シンポジウムの題目に取り上げられた。

当日は、6人のメディカルスタッフのシンポジストが登場して、多くの学会参加者を前に、それぞれの立場(看護師、理学療法士、臨床検査技師、臨床工学技士、管理栄養士、社会福祉士)から、テーマに沿って発表された。そしてこの発表に、特別講演をされた内山 聖院長(魚沼基幹病院)が、フロアから指定発言をされた。

さて、各シンポジストの講演に共通した点は、患者中心の医療の推進にはチーム医療が必須で、互いの専門性を理解し、対等な関係を構築することの重要性でした。それにはメディカルスタッフの卒前教育と新人教育を含めた卒後教育(継続教育)を充実することが基本であるとの見解でした。これは、言うまでもなく医療技術の向上と質の維持であり、患者サービスの向上につながるものです。業務的にはスペシャリストで且つジェネラリストであることが要求されているのです。また超高齢化社会においては、在宅ケアの第一歩としての的確な訪問栄養ケアが期待されている現今であり、常に患者QOLの向上とその維持に努めなければなりません。そして社会の至る所で、病気や障害を抱えながら支援を要している人達の援助にも、メディカルスタッフ間の連携を図り、その組織化に参画する必要があると思われます。

シンポジウムを通して得られた課題は、医療(臨床)が抱える問題の解決は、多職種連携が必至であり、多対応型の教育プログラムの開発と人材の育成は、医療・福祉系大学の課題であることを確信いたしました。



①特別講演の内山 聖先生



②シンポジウムでの各演者